



令和 4 年度

山形市

地域包括支援センター
の概要

山形市 長寿支援課

目 次

I 山形市地域包括支援センターの活動

1	地域包括支援センターの概要	1
2	地域包括支援センター 経営者会議	3
3	地域包括支援センター センター長会議	3
4	地域包括支援センター ブロック情報交換会	4
5	機能別部会活動	4
6	自立支援型地域ケア会議	5
7	地域ケア調整会議	5

II 各地域包括支援センターの活動

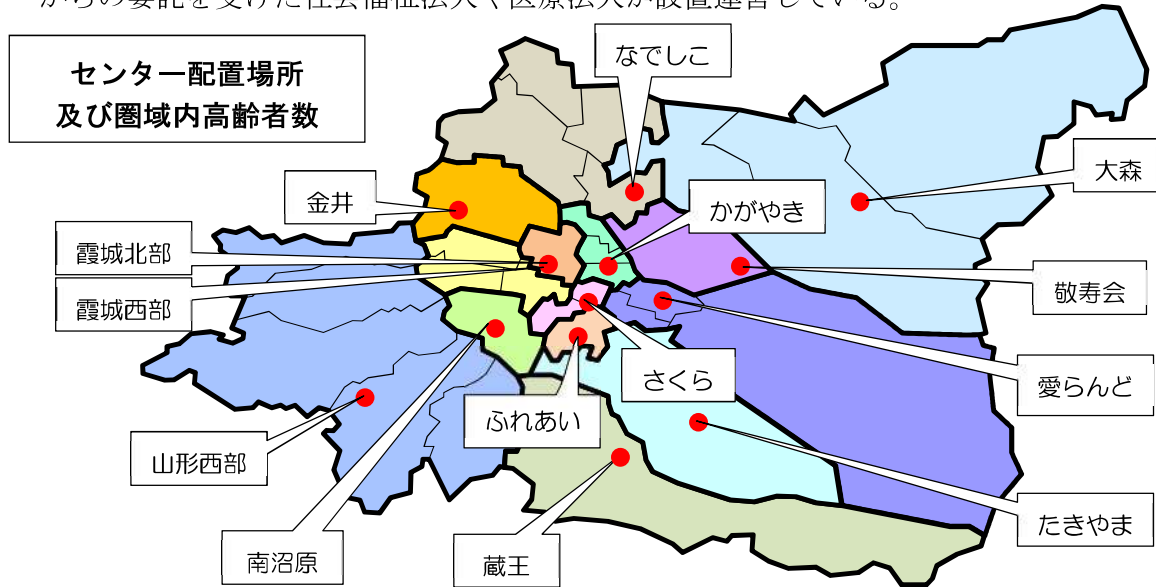
1	済生会なでしこ地域包括支援センター	7
2	地域包括支援センター大森	9
3	地域包括支援センター敬寿会	11
4	たきやま地域包括支援センター	13
5	地域包括支援センターふれあい	15
6	山形西部地域包括支援センター	17
7	篠田好生会さくら地域包括支援センター	19
8	地域包括支援センターかがやき	21
9	山形市社会福祉協議会霞城北部地域包括支援センター	23
10	山形市社会福祉協議会霞城西部地域包括支援センター	25
11	蔵王地域包括支援センター	27
12	済生会愛らんど地域包括支援センター	29
13	南沼原地域包括支援センター	32
14	金井地域包括支援センター	34
15	山形市基幹型地域包括支援センター	36

I 山形市地域包括支援センターの活動

1 山形市地域包括支援センターの概要

高齢者が住み慣れた地域で安心してその人らしい生活を継続していくことができるように、包括的及び継続的な支援を行う地域包括ケアを実現するための中心的役割を担う機関として、山形市では、高齢者人口や地域特性等を考慮し、市内を14の圏域に分け、各圏域に「地域包括支援センター」を設置している。

山形市では、包括的支援事業業務委託により実施しており、地域包括支援センターは山形市からの委託を受けた社会福祉法人や医療法人が設置運営している。



済生会なでしこ地域包括支援センター			
社会福祉法人恩賜財団済生会支部山形県済生会			
所在地	山形市長町751		
担当地区	出羽、大郷、明治、千歳		
圏域人口	20,864	高齢化率	34.3
高齢者人口	7,162		

地域包括支援センター大森			
社会福祉法人山形			
所在地	山形市大字大森2139-1		
担当地区	楯山、高瀬、山寺		
圏域人口	8,802	高齢化率	40.8
高齢者人口	3,594		

地域包括支援センター敬寿会			
社会福祉法人敬寿会			
所在地	山形市五十鈴3-6-17		
担当地区	鈴川		
圏域人口	18,155	高齢化率	30.1
高齢者人口	5,470		

たきやま地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉事業団			
所在地	山形市大字岩波5		
担当地区	滝山		
圏域人口	22,995	高齢化率	27.2
高齢者人口	6,252		

地域包括支援センターふれあい			
医療法人社団悠愛会			
所在地	山形市桜田西4-1-14		
担当地区	第六		
圏域人口	13,297	高齢化率	29.8
高齢者人口	3,958		

山形西部地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉事業団			
所在地	山形市すげさわの丘46		
担当地区	南山形、本沢、大曾根、西山形、村木沢		
圏域人口	17,583	高齢化率	32.8
高齢者人口	5,767		

篠田好生会さくら地域包括支援センター			
医療法人篠田好生会			
所在地	山形市桜町 2-68		
担当地区	第一、第二		
圏域人口	14,581	高齢化率	30.5
高齢者人口	4,445		

地域包括支援センターかがやき			
社会医療法人松柏会			
所在地	山形市旅籠町 1-7-23		
担当地区	第三、第四、第九		
圏域人口	20,944	高齢化率	29.1
高齢者人口	6,105		

山形市社会福祉協議会霞城北部地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉協議会			
所在地	山形市城西町 2-2-22		
担当地区	第七		
圏域人口	15,186	高齢化率	29.7
高齢者人口	4,510		

山形市社会福祉協議会霞城西部地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉協議会			
所在地	山形市城西町 2-2-22		
担当地区	第十、飯塚、榎沢		
圏域人口	15,219	高齢化率	31.7
高齢者人口	4,830		

蔵王地域包括支援センター			
社会福祉法人妙光福祉会			
所在地	山形市蔵王半郷石高 79-7		
担当地区	蔵王		
圏域人口	16,331	高齢化率	32.2
高齢者人口	5,258		

済生会愛らんど地域包括支援センター			
社会福祉法人恩賜財団済生会支部山形県済生会			
所在地	山形市妙見寺 4番地		
担当地区	第五、第八、東沢		
圏域人口	21,772	高齢化率	28.9
高齢者人口	6,300		

南沼原地域包括支援センター			
社会福祉法人山形公和会			
所在地	山形市沼木 1129-1		
担当地区	南沼原		
圏域人口	17,548	高齢化率	28.7
高齢者人口	5,028		

金井地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉協議会			
所在地	山形市陣場 903		
担当地区	金井		
圏域人口	15,585	高齢化率	29.4
高齢者人口	4,578		

基幹型地域包括支援センター			
社会福祉法人山形市社会福祉協議会			
所在地	山形市城西町 2-2-22		
担当地区			
圏域人口		高齢化率	
高齢者人口			

山形市			
人口	238,862	高齢化率	30.7
高齢者人口	73,257		

※担当地区を持たない

R5.4.1 現在

2 地域包括支援センター 経営者会議

【開催目的】

地域包括支援センターの運営方針や予算・人員体制に関わる事項、制度改正に伴う説明、高齢者保健福祉計画の共有などについて協議する。

【参加者】

各地域包括支援センター受託法人代表者、基幹型地域包括支援センター、山形市長寿支援課・介護保険課・指導監査課

【令和4年度の開催】

開催日	協議内容等
第1回 6月29日	<ul style="list-style-type: none">・地域包括支援センターの相談実績等について・介護保険事業等の実施状況について・各センターの職員配置状況について・指定介護予防支援事業の状況について・令和4年度地域包括支援センター評価事業について・自立支援型地域ケア会議における事例提供について・外部会議への委員選出について・チームオレンジ立ち上げについて・地域包括支援センター職員の安定的な確保に向けた検討について
第2回 9月29日	<ul style="list-style-type: none">・地域包括支援センターの相談実績等について・介護保険事業等の実施状況について・令和4年度地域包括支援センター評価事業について・令和5年度の自立支援型地域ケア会議について・地域包括支援センター職員の安定的な確保について・山形市高齢者及び障がい者雪かき等支援事業について・介護予防モデルの再構築について・認知症セミナーの実施状況について

3 地域包括支援センター センター長会議

【開催目的】

制度の周知と方針の共有、地域包括支援センターの共通課題についての検討、山形市からの情報共有などを行う。

【参加者】

各地域包括支援センター長、基幹型地域包括支援センター、山形市長寿支援課・介護保険課・指導監査課

【令和4年度の開催】

開催日	協議内容等
第1回 4月8日	<ul style="list-style-type: none">・長寿支援課・介護保険課・指導監査課の業務体制及び地域包括支援センター等の職員体制について・令和4年度地域包括支援センター長会議等の開催予定について・山形市長寿支援課主催の研修会等の開催日程について・山形市による介護保険以外の生活支援サービスにおける変更点について・令和4年度介護予防教室等の予定について

	<ul style="list-style-type: none"> ・山形市重層的支援体制整備事業の概要について ・山形市社会福祉協議会まると支援係の相談体制について
<p>第2回 2月2日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターの相談実績等について ・介護保険事業等の実施状況について ・令和4年度地域包括支援センター評価事業の実施結果について ・地域包括支援センターにおいて方針に基づき配置する5人目の専門職の取扱いについて ・令和5年度地域包括支援センターの運営について ・地域ケア会議を通じた課題整理について ・次期計画に向けたニーズ調査及び策定スケジュール案について ・保険事業と介護予防の一体的実施について ・チームオレンジの進捗状況について ・基幹型地域包括支援センターより
<p>第3回 3月22日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターの相談実績等について ・介護保険事業等の実施状況について ・令和4年度地域ケア調整会議における協議内容について ・生活支援体制整備事業の実施状況について ・その他令和5年度の関連事業について ・包括的支援事業業務委託の変更点やスケジュールについて ・自立支援型地域ケア会議から把握した地域課題とその対応について ・介護予防モデル再構築事業について ・第9期介護保険事業計画策定に向けたスケジュール等について ・各包括的支援事業機関における令和5年度事業計画について ・重層事業について報告

4 地域包括支援センター ブロック情報交換会

【開催目的】

地域包括支援センター業務の円滑な遂行のために、3ブロック(北東、中央、南西)に分かれ、日常的な情報共有、業務上の課題の共有などを行った。地域包括支援センターが主体となり、各ブロック随時開催した。

5 機能別部会活動

【開催目的】

地域包括支援センターの4つの機能(総合相談、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント、介護予防ケアマネジメント業務)を向上・推進するために開催した。地域包括支援センターの業務上の課題について、専門性に基づき分析し、解決に向けた取組みを行った。

【令和4年度の実施状況】

名称	主な取り組み
総合相談部会	地域包括支援センター初任職員向けの研修、障害者相談支援事業所との合同研修の企画・運営など、地域包括支援センター職員のスキルアップや他機関との連携に向けた取組みを行った。

権利擁護部会	虐待対応ハンドブックの理解のため、フローチャートに沿った事例検討を行い、専門職としてのスキルアップを図った。また、虐待対応多機関連携ワーキンググループと協働し、虐待対応に係る居宅介護支援専門員研修を実施したことにより、多機関による連携対応の必要性を共有した。
包括的・継続的ケアマネジメント部会	個別ケアマネ支援の事例検討を通じたスーパービジョンの手法の習得や各自のスキルアップを図った。また、居宅介護支援事業所連絡会と合同で研修会を企画・実施し、連携強化につなげた。
介護予防ケアマネジメント部会	部会メンバーが共通で取り組みたいと考えていることや疑問に感じている事柄について検討するワーキンググループを3つ編成し（介護予防の取組、通所などの情報交換、精神疾患の方への対応）、積極的な意見・情報交換や部会内でのアンケート調査により、現状把握や課題の抽出・整理を行った。

6 自立支援型地域ケア会議

【開催目的】

高齢者の自立支援に資するケアマネジメントの支援や高齢者のQOLの向上、介護給付の適正化の取り組みに資することにより、医療・介護・住まい・生活支援等が一体的に提供される地域包括ケアシステム構築の実現を目指すために開催した。

また、会議を通して、地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所の介護支援専門員のスキルアップを図るとともに、検討事例を積み重ねることにより地域課題の把握につなげた。

令和3年度からの変更点として、市主催の会議は1回の開催につき3事例から2事例とし、1事例に充てる時間を30分から45分とした。

また、会議から見える地域課題の整理を行った。

【参加者】

- ・コーディネーター：長寿支援課・介護保険課職員
- ・事例提供者：地域包括支援センター職員、居宅介護支援事業所職員、小規模多機能型居宅介護事業所職員、看護小規模多機能型居宅介護事業所職員
- ・助言者：薬剤師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士

【令和4年度の開催】

市主催：14回開催（28事例） 地域包括支援センター主催：14回開催（27事例）

※包括主催分については、コロナウイルスの影響で1事例を中止した包括があった。

7 地域ケア調整会議

【開催目的】

包括的支援事業を担う多機関が把握・整理した地域課題のうち、多機関で共有して協議・対応すべき課題について、解決に向けた方向性と役割分担等を協議し、一定の方向付けを行った。

【参加者】

各機能別部会代表者、介護保険事業所、多機関協働支援センター、おれんじサポートチーム、在宅医療・介護連携室ポピー、生活支援コーディネーター、基幹型地域包括支援センター、山形市長寿支援課・介護保険課

【令和4年度の開催】

3回（8/1、11/30、1/26）

Ⅱ 各地域包括支援センターの活動

1 済生会なでしこ地域包括支援センター



1 総合相談業

◇ ネットワーク連絡会

開催日	内容
新型コロナウイルス感染者急増のため、7/28 集合開催予定から書面開催へ変更	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度事業報告 ・ 令和4年度事業計画 地域包括支援センターだより7月号 ・ 事業報告確認書 令和4年度地区別人口 〈 山形市からの資料提供 〉 <ul style="list-style-type: none"> ①人生会議・在宅療養普及啓発動画 ②令和4年度認知症について考える市民セミナー ③訪宅事業者が見守り活動を実施しています

◇ 地区別ネットワーク会議(住民懇談会含む) 感染拡大防止の観点から開催見合わせ

◇ 地域ケア会議(虐待等個別の困難事例に関するもの) 10回

◇ センターだよりの発行 4回

◇ 地区役員定例会への参加

会議名	千歳地区	出羽地区	明治地区	大郷地区
民生委員児童委員定例会	2回	2回	2回	1回
福祉推進会議 (地区社協総会を含む)	1回	1回		1回
福祉協力員研修会	1回	1回	2回	2回
その他		・ないまぜの会 (多職種連携ミーティング)	・福祉まつり ・文化祭 ・介護者激励懇談会	・福祉マップ 更新研修

2 権利擁護業務

◇ 高齢者虐待相談(困難事例含む)への対応 20件

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 地域ケア会議の開催(ケアマネジャー支援に関するもの) 10回

◇ 居宅介護支援事業所研修会 2回、管理者交流会 1回


◇ 地域密着型サービス事業所運営推進会議(書面会議) 8回

4 介護予防の取り組み

◇ 通所型サービスB(ひとあひ処「合」)の継続支援活動 9回

◇ 介護予防教室(ながいき元気くらぶ) 6回

紹介したい取り組み

事業名	ながいき元気くらぶ（全6回）
事業の目的	圏域内の地域住民に対し、介護予防の意識付けを高められるよう介護予防教室を企画運営し開催する。
事業概要	<p>『ながいき元気くらぶ』は圏域内の地域住民に対して行う介護予防教室で、令和2年度からは済生病院と共催で実施。当日は医療福祉相談コーナーを設け、済生病院の相談員より対応頂く。今年度は各コミュニティーセンターを会場に、全6回開催。健康運動指導士や通所介護事業所の理学療法士による軽体操の実施をメインに、訪問看護ステーションの看護師より訪問看護やフットケアについて、おれんじサポートチームより認知症の講話を頂き実施。</p> 
成果または感想	ながいき元気くらぶを開催し今年度で9年目となり、毎年参加して下さる方や、毎回参加される方も見られるようになった。令和2年度からは済生病院との共催となり、運動内容もより参加者が楽しめるものとなっている。圏域内の事業所の専門職より協力を頂き開催できており、地域の繋がりの大切さを感じている。次年度以降も、地域住民が気軽に参加できる会となるよう、実施していく。

事業名	居宅介護支援事業所研修会（zoomによるオンライン形式で開催）
事業の目的	介護支援専門員相互のネットワークづくりや介護事業所との情報交換等により連携を深め、自立支援に資するケアマネジメントに取り組めるよう支援する。
事業概要	<p>1部 事例紹介</p> <p>高齢者本人ではなく家族について相談支援事業所に繋いだケース。圏域内にある居宅介護支援事業所や障がい者相談支援事業所と連携して対応した事例を紹介。相談支援事業所の業務内容や役割についても説明。それぞれの機関で対応した経過を振り返り、連携のポイントなどを共有。</p> <p>2部 グループワーク</p> <p>事例についての質問や日々の業務での疑問など出し合った。発表したグループ毎に質問への返答の時間も設けた。重層的支援体制整備事業が開始された中で、介護支援専門員一人ひとりの意識付けに繋がったと思われる。</p>
成果または感想	新型コロナ感染症拡大防止のため昨年に引き続きオンライン形式で開催。家族支援や重層的支援体制整備事業に繋がる内容を企画した。研修会から数か月経過した頃ある介護支援専門員から「研修会で勉強した家族支援の視点で関わっている」という言葉をお聞きし、研修会の成果を感じた。

2 地域包括支援センター大森

1 総合相談業務

楯山・高瀬・山寺



◇ 地区会議・行事への参加

高瀬地区：高齢者支援連絡会、地域福祉推進会議、福祉協力員研修会

楯山地区：合同研修会、買い物支援打合せ、福祉協力員研修会

山寺地区：福祉協力員研修会、地区社会福祉協議会全体会議

その他：各地区三者懇談会参加 20回

- ・高瀬地区 福祉推進会議 ACPについて講話
- ・楯山地区 福祉推進会議 老後に快適な生活を送るには
(介護サービスと一般的な費用について) 講話

◇ 地区役員定例会への参加 36回

◇ センターだよりの発行 6回

2 権利擁護業務

- ◇ 虐待案件対応 1件
- ◇ 生活困窮等の対応 3件
- ◇ 認知症サポーター養成講座 1回



3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 圏域内介護支援専門員連絡会 1回
 - ・家族支援について、研修の振り返りと災害時について情報共有
- ◇ 介護支援専門員個別支援 8回

4 介護予防ケアマネジメント業務

◇ 高瀬地区いきいき百歳体操継続支援

百歳体操開催時に山形市長寿支援課予防推進係と共に体力測定の実施や、健康講座を開催した。

◇ 山寺地区いきいき百歳体操継続支援

6月に歯科衛生士さんによるお口の健康講座を開催。好評につき、11月にも再度開催。6月以降毎月、百歳体操後にお口の体操も実施している。

◇ 清水地区・山寺地区認知症予防教室の後方支援

紹介したい取り組み

事業名	高瀬地区地域福祉推進会議 人生会議（ACP）について
事業の目的	高瀬地区の地区役員から、人生会議（ACP）についての講演依頼があり、地域住民のACPについての関心が高いことを把握した。また、高瀬地区は高齢化率が高い地域であるため、人生会議（ACP）の普及・推進を目的として行った。
事業概要	<p>高瀬地区の民生委員、福祉協力員、地区役員、その他参加希望者（計50名程）に対して、人生会議（ACP）の概要や進め方等について、地域包括支援センター大森の保健師より、30分程度の講演を行った。</p> <p>講演内容としては、高瀬地区の現状についてお話しし、人生会議とはどのようなものか、どのように進めていくのかを説明した。実際に、ご自身のことを振り返っていただき、これからの人生において大切にしていきたいこと等を考えていただく時間も設けた。さらに、人生会議を行う際に活用できる冊子や、人生会議をより身近に感じられるような動画等の情報提供も行った。</p> <p>講演前に事前に、在宅医療・介護連携室ボピーの保健師様より、講演内容についてご教授いただき、資料を作成した。</p> <p>講演終了後、「高瀬コミュニティセンターだより」の記事の依頼もいただき、人生会議（ACP）についての普及・推進を呼びかける記事を掲載させていただいた。</p>
成果または感想	ご参加いただいた方からは、「わかりやすい説明、内容だった。」というお声をいただいたり、公演中に紹介した冊子を帰り際にお持ち帰りくださる方が多くいらっしゃって、人生会議（ACP）への関心をより高めることができたと感じた。
事業名	楯山地区 福祉推進会議 老後に快適な生活を送るには
事業の目的	地区福祉の課題を共有する。
事業概要	<p>毎年開催されている、楯山地区の福祉推進会議にて、今年は住民の方達から「将来施設に入るとなった時にどのくらいお金がかかるのか知りたい。」「デイサービスを使うとなるといくらくらいかかるのか知りたい。」と介護サービス利用時の金銭面が気になるという声がたくさんあがった。そこで、入所施設やデイサービスなど利用料の目安を、具体的に示しながらお話しつつ、金銭面のお話だけでなくACPやフレイル予防にも触れてお話しさせていただいた。</p> 
成果または感想	当日は地区の役員さんを初め、一般の方にもご参加頂き、皆さんの関心の高さを感じることができた。「どこかまだ他人事としていたが、自分の事として捉える必要があると思った。」などと感想をいただき、少しでも介護予防に関心を持っていただけたことがわかった。

③ 地域包括支援センター敬寿会



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
3月2日	令和4年度の活動報告、次年度に向けて

◇ 鈴川地区ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
6月2日	講話「認知症になっても慣れ親しんだ地域で暮らし続けるために〜グループワーク 認知症の方への接し方を学ぼう 事例提供・寸劇：おれんじサポートチームえがお 認知症カフェについて

◇ いきいきサロン等への参加 7回

◇ 地区役員定例会への参加 27回

◇ 地区行事への参加

鈴川地区社会福祉協議会常任理事会

鈴川地区民生委員児童委員定例会

鈴川地区福祉協力員研修会 ・ 東西南北ブロック福祉協力員情報交換会

鈴川地区福祉関係者研修 ・ 地域福祉推進会議

鈴川地区戦没者慰霊祭 ・ 高齢者いきいき交流会 ・ 垂松連合町内会敬老会

三者懇談会（表宿1・五十鈴2・双月2・五十鈴東）

鈴川交流センター「いきいき百歳体操」

◇ センターだよりの発行 4回

2 権利擁護業務

◇ 鈴々倶楽部フォローアップ 消費者被害を学ぼう 1回

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 個別支援型地域ケア会議 1回

◇ 介護支援専門員への個別支援 1回

◇ 小規模多機能型居宅介護事業所

介護支援専門員 事例検討会 1回




◇委託居宅介護支援事業所対象事例検討会 1回

4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇介護予防教室～健康講話～ 2回
- ◇出前講座(健康講話) 7回
- ◇認知症サポーター養成講座 2回

紹介したい取り組み

事業名	鈴々倶楽部（フレイル予防教室）フォローアップ交流会
事業の目的	令和 3 年度に元気なうちから介護予防への意識を持ち運動習慣を持ってもらうことを目的としたフレイル予防教室「鈴々倶楽部」を立上げ、その第1回終了者を対象に、この1年間の取組や成果の確認と、仲間との交流を目的に開催した。
事業概要	<p>「今の自分のからだを知ろう」</p> <p>令和3年の開催時同様に、計測を実施し自分の体の状態を比較してみる。</p> <p>身長・体重・血圧・握力・骨密度・バランス力</p> <p>これまでの取組、自分で気を付けていることなど情報交換を行う。</p> <p>交流会では、「落語」を楽しんでいただく。</p> <p>講師を金融広報アドバイザー高橋宜弘氏に依頼し、詐欺や悪質商法被害にあわないための啓発も兼ねて実施。</p> 
成果または感想	<p>参加者の皆さんは、同級会のように再会を喜ばれていた。令和 3 年に測定した結果を数字で比較することで、これまでの頑張りや気の緩みを反省でき、これからは繋がるものと思う。交流会では「こんなに笑ったのは久々だ」と脳の活性化にもなった。健康寿命を延ばすには「フレイル予防・対策」がカギとなると考える。介護予防の意識が地域の高齢者全体に広がるよう普及、啓発に今後も力を入れていきたいと思う。</p>

4 たきやま地域包括支援センター



1 総合相談業務

- ◇ ネットワーク連絡会
7月29日書面開催 令和3年度活動報告・令和4年度事業計画
子ども高齢者見守りネットワークについて
- ◇ いきいきサロンや介護予防教室での相談対応
- ◇ 地区役員定例会への参加
民生児童委員協議会定例会 地区社会福祉協議会総会・幹事会
我がごと丸ごと検討会 地区福祉協力員連絡会
- ◇ 地区行事への参加
福祉推進会議、介護予防の集い、福祉協力員研修会、三者懇談会、絆づくりの会
- ◇ センターだよりの発行 6回（全戸配布1回、回覧5回）

2 権利擁護業務

- ◇ 認知症サポーター懇談会（認知症カフェの企画）
- ◇ 権利擁護に関する周知啓発（サロン、集い、介護
予防教室、研修会等）




3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

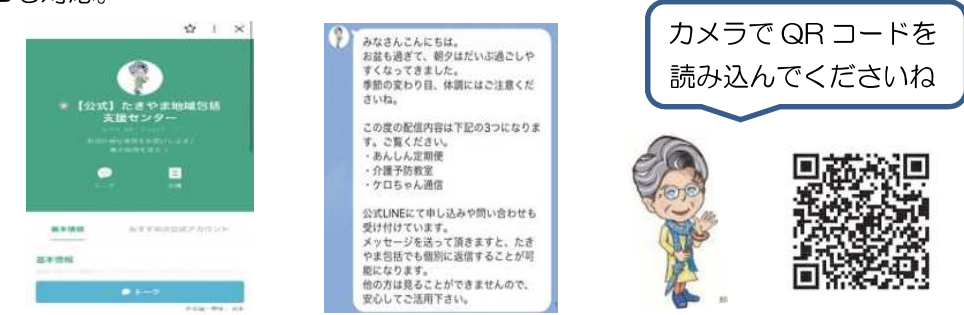
- ◇ 介護支援専門員連絡会 10回（居宅介護支援事業所7回、小規模多機能型居宅
介護事業所3回）
- ◇ 介護保険サービス事業所連絡会
- ◇ 介護支援専門員への個別支援 4回
- ◇ 個別地域ケア会議 2回
- ◇ 認知症カフェ 4回

4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇ たきやま介護予防教室（フレイル予防） 5回
- ◇ 通いの場・サロン等の立ち上げ、継続支援（コロナ感染予防、体力測定）3回
- ◇ 介護予防に関する講話・周知啓発

紹介したい取り組み

事業名	花びら染めワークショップ
事業の目的	地域の高齢者と若者の交流促進
事業概要	<p>滝山地区にある大学と高齢者との世代間交流を目的に 3 年前より学生企画のイベントを共同開催。今年度は卒業制作として、売り物にならない破棄予定の花(口スフラワー)に着目。地域の花農家より譲り受け花びら染めのワークショップを企画、認知症カフェにて開催。学生、包括、生活支援コーディネーターの三者間で周知方法や当日の流れ、持ち物、参加費用について打ち合わせを実施。</p> 
成果または感想	<p>8 名参加。参加者より来年度もぜひとの好評をいただいた。学生の方より高齢者との関りを通して身近に感じることができた、大変勉強になったとのご意見をいただく。また、打ち合わせを重ねる中で若者世代がイメージする高齢者の印象や考え方について知ることができた。今後とも高齢者の生活の質の向上や相互理解の促進のための取り組みを継続したい。</p>

事業名	公式 LINE アカウント
事業の目的	滝山地区の地域福祉情報の発信、権利擁護に関する周知啓発
事業概要	<p>令和 4 年 7 月より本格的な運用を開始。事業所連絡会やネットワーク連絡会、町内会の集まりなど福祉事業所や地域住民向けに周知。市・包括主催の事業案内、権利擁護に関する周知啓発、包括発行の広報誌を配信。また希望者には個別相談にも対応。</p> 
成果または感想	<p>登録者数 84 名、県外の方など幅広い方が登録。登録した方から「LINE をきっかけに事業への参加を決めた」、「個別相談が気軽にできた」、ケアマネジャーからは「利用者向けの情報提供に役立った」等好評をいただいた。今後、登録者向けにアンケート調査を実施し、配信内容の充実や登録者数の増加を目指したい。</p>

5 地域包括支援センターふれあい



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会開催

開催日	主な議題
11月26日	テーマ 「防災アンケート実施から見てきた課題について」 共催: 第六地区社会福祉協議会・生活支援コーディネーター・ふれあい 町内、地域の事業所それぞれに行なったアンケート結果を報告し、山形市防災アドバイザー佐藤氏から課題に対する取り組み等への助言をいただいた。

◇ いきいきサロン等への参加 22回

◇ 地区役員定例会等への参加 23回

(民生委員児童委員協議会定例会・第六地区社会福祉協議会事務局会議)

◇ 地区行事への参加

第六地区：地区社会福祉協議会総会（事業開催に向けた会議等にも参加）、福祉協力員研修会、老人クラブ総会、福祉推進会議、町内会総会、等

◇ センターだよりの発行 4回

2 権利擁護業務

◇ 認知症サポーター養成講座 1回 ◇ 認知症カフェ(ふれあいほっとするカフェ) 5回

◇ 消費者被害防止啓発ボランティア交流会 1回

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 介護支援専門員連絡会・情報交換会 3回 ◇ 介護・認知症講座 1回

◇ 介護ふれあい交流会サポート 9回

◇ サービス事業所連絡会・地区貢献支援活動（移動支援） 3回

4 介護予防ケアマネジメント業務

◇ ふれあい健康講座（お口若返り講座） 2回

◇ 通いの場継続支援（10カ所の通いの場に巡回）

◇ 出前講座（介護予防 認知症 栄養講話・・・） 5回

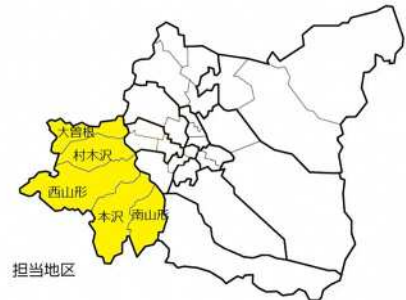
紹介したい取り組み

事業名	介護は突然やってくる ～介護しながら、仕事を続けるために～
事業の目的	働いている世代の方が急に「介護」という場面に遭遇しても介護離職しないためには、どうすればいいのか、どこに相談すればスムーズに手続きできるのかわかり、一人で悩まないようにする。
事業概要	親が70～80歳代になるような子ども世代（40～50歳代）を対象。平日18時半～開催。 ①地域包括支援センターの説明 第一の相談先として「地域包括支援センター」を知って頂くために『地域包括支援センターの役割（生活支援コーディネーターの役割含む）』を伝えた。 ②介護離職しないために知っておきたい制度 ～社会保険労務士 佐藤由香里様の講話～ ◆ポスターにQRコードを取り入れ、若年層が申し込みやすい方法で対応 ◆周知：圏域内の銀行、スーパー、薬局、ほっとする会（圏域内事業所）にチラシの配布及び対象者になり得る方への声かけ、ポスター掲示依頼。また山形市（長寿支援課）の協力を得て、市内の居宅へメールにて周知協力
成果または感想	働いている世代を対象にしたため夜の開催にしてみたが、参加者が少なく次年度に向けて開催時間の要検討が必要だとわかった。周知の際には、日頃センターだよりを配布している機関へも直接周知を行うことができ、ネットワーク構築の一つとなった。しかし直接若年層への周知の難しさを痛感した。介護はいつやってくるか、いつまで続くのかわからないため、相談先となる包括の周知を徹底することで、必要時相談先がわかり介護離職防止につながると思う。周知する対象は高齢者だけでなく様々な機関に行くことが必要だと改めて感じた。

事業名	ふれあいほっとするカフェ（認知症カフェ）
事業の目的	認知症の方や家族、認知症に興味のある方などどなたでも参加して、講話を聞いたり参加者同士の交流を通じて、認知症への理解を深めながら認知症に優しい地域づくりを行うため。
事業概要	平成29年から圏域内の認知症サポーターと勉強会を重ねて平成30年12月から年4回程度開催。コロナ禍で同様の開催ができない期間には勉強会や情報共有を行いサポーターとの関係や参加者への働きかけを継続した中で、今年度隔月（偶数月）に開催することができた。 ◆場所：南部公民館 1階（相談コーナーを部屋の隅に仕切りを活用して作成） ◆内容：前月にサポーターと打合せを行い、テーマを決めてチラシ作成。 サポーターが中心となり受付や進行、時には講話を行う。 ◆周知：圏域内に回覧、民生委員へのチラシ配布、圏域及び委託居宅へ周知
成果または感想	今年度の認知症カフェは、コロナの影響での中止は1回のみで予定通り隔月で開催できたこと、事業所の地域貢献である『移動支援』という新しい社会資源により参加者の増加や事業所の協力など多くの成果があった。そのおかげで、やはり身近なところで歩いて行けて気軽に集える場所の必要性を改めて感じ、第六地区にもう1か所カフェの立ち上げを行う企画を検討中。コロナ禍となり、気軽に相談したり集まったりすることが難しい今だからこそ、来年度もサポーター（新しい地域の担い手も増えれば一緒に…）、SC、おれんじ、包括一丸となって盛り上げていきたいと思う。

6 山形西部地域包括支援センター

1 総合相談業務



◇ 地域包括支援センターネットワーク連絡会

開催日	地区	主な議題
6月22日	5地区合同	地域における見守り活動について考える

◇ 各地区ネットワーク連絡会 (5地区)

開催日	地区	主な議題
2月2日	西山形	第8期計画の3年目を迎えるにあたり、地域の方へ適切な情報を届けるために
2月8日	本沢	同上、効果的な介護予防の取組みについて
2月10日	南山形	同上、認知症になっても大丈夫、住み慣れた南山形地区で自分らしく生きる
2月15日	村木沢	同上、地域で介護者を支えるための支援について
2月17日	大曾根	同上、地域関係機関とのこれからの連携にむけて

- ◇ いきいきサロン・通いの場への参加 57回
- ◇ 南山形百歳体操(健康講話)10回、福祉道場 1回
- ◇ 本沢備える研修 2回 打合せ3回
- ◇ 西山形はつらつ元気教室 2回 打合せ5回
- ◇ 認知症予防教室(3回1クール)2地区合同開催 おれんじサポートチーム共催
- ◇ 本沢地区介護予防重点事業(3回1クール)2サロン
- ◇ 関係団体への研修会 5回
- ◇ 民生委員児童委員定例会/我が事丸ごと相談会への参加 35回
- ◇ 地区関係者・住民向け研修会/会議/行事等への参加 9回
- ◇ 地域密着型運営推進会議 10回 *書面開催あり
- ◇ はつらつ生活出前相談の開催(医療福祉情報) ※コロナ禍による事業中止
- ◇ 西山形介護者サロン「いっぶぐ会」 10回(集会所やコミセン)
- ◇ 認知症カフェ 9回/市営南山形住宅、(カフェオキナグサ:開催自粛)
- ◇ 本沢地区元気もりもり応援隊活動支援 20回
- ◇ センターだよりの発行 4回

◇ ツナガル大曾根の発行 2回

2 権利擁護業務

◇ 出前相談等（消費者被害/もしもシートの紹介等） 2回

◇ 個別相談等 40件

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 個別地域ケア会議の開催 10回

◇ 圏域内居宅連絡会・幹事会 4回

◇ 介護支援専門員への個別支援 6回

◇ 自立支援型ケア会議 4回

4 介護予防ケアマネジメント業務

介護予防講座:西山形はつらつ元気教室（コミセン/地区共催） 2回

◇ いきいきサロン・通いの場への参加 前述

紹介したい取り組み

事業名	人生会議「いっぶぐカード」開発
事業の目的	人生会議 ACP の普及啓発のため
事業概要	<p>これまでもサロン等で「人生会議」「ACP：アドバンスケアプランニング」「在宅療養について」などご紹介してきましたが、サロンに来られる住民にとって理解しがたく、どのようにしたら前もって話をしておくことの大切さを伝えられるのだろうか…とセンターでは話題になっておりました。</p> <p>令和4年11月西山形地区のはつらつ元気教室において、人生会議をテーマに取り上げるにあたり、住民に身近に思ってもらえるようにと、ポピーと共同し、人生会議いっぶぐカードの開発に至りました。</p> <p>参加した方の感想から、「カードゲームは自分のこれからの人生の生きざまを考えていくうえで大変参考になりました」「自分のことでも深く考えたことがないと改めて思った」「自分でも気が付かないことが改めて知れて良かった」など、新たな気づきにつながっているようです。</p> <p>はつらつ元気教室以降、各サロン等15カ所（のべ217名）で実施し、好評価をうけております。ただ、内容についてポピーとより良いものへと検証を重ねているところです。</p>
成果または感想	<p>この人生会議いっぶぐカードを体験してもらおうと、楽しかったからとサロンで繰り返し希望されたりしますが、カードをした後は、山形市で作った在宅療養普及啓発動画を見てもらおうように働きかけをし、より在宅療養を考えるきっかけ作りをして展開中です。</p>

7 篠田好生会さくら地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
	コロナウイルス感染拡大防止のため中止

◇ 地区ネットワーク連絡会

開催日	地区	主な議題
10月21日	第一	テーマ「災害に備える ～地域と関係機関の現状を知る～」
11月18日	第二	①山形市総務部防災対策課より「災害に備えて」の講話 ②情報共有 ・各町内、各事業所より防災対策の現状について

- ◇ 地域ケア会議（個別事例に関するもの） 4 回
- ◇ いきいきサロンへの参加 24 回
- ◇ 地区役員定例会への参加 67回（民生委員協議会定例会 等）
- ◇ 地区行事への参加

第一地区：正副会長会、地区社会福祉協議会理事会、地区社会福祉協議会総会、福祉協力員研修会、福祉推進会議、福祉懇談会

第二地区：福祉協力員研修会、地域福祉推進会議、地区社会福祉協議会総会、地区社会福祉協議会事業打ち合わせ会

- ◇ 出前相談 19 回
- ◇ センターだよりの発行 4 回

2 権利擁護業務

- ◇ 認知症サポーター養成講座の開催 0 回

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 地域ケア会議の開催（ケアマネジャー支援に関するもの） 6回
- ◇ 圏域内居宅連絡会（医療機関/民生委員との情報交換会、事例検討会等） 2 回
- ◇ 介護支援専門員への個別支援 43件

4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇ 出前講座（介護予防に関する内容） 8 回

紹介したい取り組み

事業名	いつまでもいきいき講座
事業の目的	第一地区住民に向けて、介護や自分のことを考える機会とする（共催事業）
事業概要	<p>第一地区社会福祉協議会主催、町内会長会・民生委員児童委員協議会・寿会連合会との共催で毎年開催（参加者 14 名）。今年度は「看取りを考える～家族の立場から～」というテーマで、さくら地域包括支援センターセンター長が講話。仕事と介護の両立、両親の介護や看取りから得た経験から、自分事としての備えや介護、看取りの際の準備や心構えについて話があった。</p>
成果または感想	<p>参加者からは、「私の母ととても共通することが多く、自分だけじゃないと安堵。今後は一生懸命になりすぎないように母親が笑顔でいられるようにしたい」「自分の最期を決めておく」「早めに子供と話し合う」などの声が聞かれ、我が事として、また ACP を考える機会になった。今後も我が事として備えていく機会を作っていきたい。</p>
事業名	健康の秘訣 歩け歩け楽々ウォーキング（西部公民館との共催事業）
事業の目的	地区住民の健康増進を図る
事業概要	<p>西部公民館主催、第二地区社会福祉協議会、さくら地域包括支援センター共催で毎年開催。指導は全日本ノルディックウォーク連盟公認指導員。西部公民館内で包括より血圧測定実施後、指導員よりポールを使用した歩行についての講習があり、その後実際に外へ出てウォーキングを実施した。第二地区社会福祉協議会で購入していたポールを借りて、2キロの初級コース（西部公民館周辺）、4キロの上級コース（西部公民館から霞城公園周辺）の2回に分けて開催したが、初級、上級の両方へ参加した方が多かった（参加者 10 名弱）。</p>
成果または感想	<p>参加者からは、「みんなと歩いて楽しかった」「意外に疲れなかった」「ポールを使って歩くのが楽しい」との意見があった。介護予防の良いきっかけづくりになったと感じているが、継続的にウォーキングにと取り組みたいという意見は少なかった。今後各自で歩いたり、ウォーキングチームを作って継続的に運動できるように取り組んでいきたい。</p>

8 地域包括支援センターかがやき



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
6月17日	① 令和3年度地域包括支援センターかがやき事業報告について ② 令和4年度地域包括支援センターかがやき事業計画について
2月15日	① 令和4年度地域包括支援センターかがやき事業 中間報告について ② 令和5年度地域包括支援センターかがやき事業計画の策定について

◇ 地区役員定例会への参加 29回

◇ 地区行事への参加（一部のみ記載）福祉協力員連絡会・研修会、地区社会福祉協評議員会総会、地域福祉推進会議、北部公民館つながり支援講座等 多数

◇ センターだよりの発行 4回（5月・7月・10月・1月発行）

2 権利擁護業務

◇ 虐待防止に関する住民への周知を図るため、広報誌に「虐待発見チェックリスト」を掲載した。

◇ 権利擁護相談 53件、（延べ件数53件、新規相談受付分のみカウント）

項目/ 地区	第3地区	第4地区	第9地区	その他	不明	延べ件数
後見関係	5	4	2	1	0	12
虐待関係	5	8	4	3	0	20
生活困窮等	8	5	1	0	0	14
その他	4	2	0	1	0	7
計	22	19	7	5	0	53

今年度新規相談として受付した相談のみを計上。コロナ禍での社会生活は一進一退の状況が続いているが、社会そのものが慣れてきたのか、自粛生活を余儀なくされた昨年度とは違い、権利擁護に関する相談は増加している。内容に関しては、経済的だけといった原因が一つだけのものでなく、障がいを抱えた子がいて、本人も認知症になってしまったなど複雑化・複合化した課題を抱えているケースもあり、子ども・障がい・高齢・生活困窮といった分野別の支援体制では、対応が困難になっているケースも多くなっている。件数には含まないが、安否確認の相談は17件、65歳未満の方の相談が延べ28件、8050問題と言われる相談が延べ5件の相談があった。

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 地域ケア会議の開催（ケアマネジャー支援に関するもの） 7回
- ◇ 圏域内介護支援専門員連絡会 2回（連絡会・研修会）
- ◇ 圏域内居宅、小規模事業所管理者懇談会 2回
- ◇ 幹事会 4回
- ◇ 自立支援型地域ケア会議 3回 4事例(包括主催2事例)

介護支援専門員研修会	個別支援 (介護支援専門員からの相談に対する対応)
<p>7月14日 第1回圏域内介護支援専門員研修会 ZOOM 開催 「精神障害者の理解と地域支援の実際」 地域活動支援センターおーる 所長 田村 英明 氏</p> <p>12月1日 第2回圏域内介護支援専門員研修会 ZOOM 開催 「ケアマネジメントにおける世帯支援について ～家族理解とスーパービジョンの勧め～」 Social Workers Office Oasis 代表 大江 祥子 氏</p>	<p>・ケアマネからの個別相談は4件寄せられた。包括支援センターと連携のうえチームでかかわる意識が高まり、気軽に相談できる環境が整ってきたことも影響していると思われる。また、個別地域ケア会議開催件数は7件となっており、包括主催で、関係機関等との支援チーム形成を早期に行ったことで、ケアマネの個別支援に繋がっている。</p> <p>・対応の主なものは、個別ケースへの対応方法に関することが多いが、その中でも精神疾患のある高齢者や家族への対応、高齢者虐待や経済困窮、認知症、視覚障がい者、要介護者が複数いる世帯への支援等相談が多く寄せられた。</p>

4 介護予防ケアマネジメント業務

「住民主体の通いの場」については、長寿支援課予防推進係及び生活支援コーディネーターの協力を得て、立上げ支援や継続支援等を行なった。開催場所として、地域内の介護事業所などに場所の提供をお願いしている。住民が主体となって運営が継続的に行われており、参加者同士のゆるやかな関係性の中で生活支援等の互助も進んできている。コロナ禍においては、休止しているところもあるが、感染予防対策の点検などの支援を受けて徐々に再開している。

◇ 介護予防教室 述べ 32名参加 (コロナ禍で活動自粛)

◇ 出前講座 (介護予防に関する内容) コロナ禍で実施できなかったが、介護予防手帳を配布。

<紹介したい取り組み>

◇ 「フレイル予防を学ぼう講座」フレイル予防

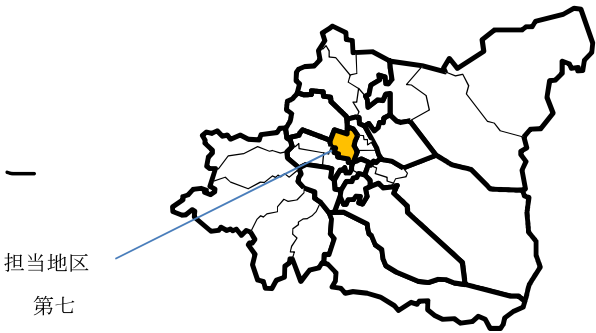
10月11月に全2回、フレイルサポーター養成のため、4地区福祉協力員対象に以下の企画を実施し、二日間で延べ47名参加。今後各通いの場へ普及するために、動画作成し講座に活用した。アンケート結果の満足度も高く、特に自身の食生活を客観視できる栄養摂取状態の個人結果が好評だった。

10/25 11/8 北部公民館 大ホール

- ・「フレイルって何だろう？」
- ・「食べることはフレイル予防の第一歩 DHQ テスト」
- ・口腔体操 運動の動画
- ・社会参加について



9 山形市社会福祉協議会
霞城北部地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
6月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度事業計画・地域の計画について報告 ・介護予防（のんびりウォーク・江南公民館との共催等） ・地域の方と圏域内事業所、関係機関とのつながりについて
3月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度活動実績と内容報告 ・来年度の取り組みについて

◇ 地区ネットワーク交流会 「地区圏域内にある介護保険事業所と住民の関係づくり」

◇ いきいきサロンへの参加 10回

◇ 地区行事・会議への参加

福祉協力員ブロック代表者会議、地区社協評議員会、福祉協力員研修会、三者懇談会（清水町・下条町3町内・北町・西中央）、第七地区健康推進事業、地域福祉推進会議、サロンスタッフのサロン

◇ センターだよりの発行 3回

- ・65歳以上高齢者宅全戸配布
- ・公民館・金融機関・医療機関・歯科医院・薬局・交番・介護保険事業所に配布

2 権利擁護業務

◇ 男性介護者サロン 2回

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 介護支援専門員への個別支援 8回 ◇ 地域ケア会議（個別事例に関するもの） 5回

◇ 圏域介護支援事業所連絡会（霞城西部と合同開催）

4 介護予防ケアマネジメント業務

◇出前講座(介護予防に関する内容) 9回

紹介したい取り組み

事業名	介護予防講座
事業の目的	地区の住民の方の健康増進と介護予防の意識向上を図るため。
事業概要	江南公民館との共催で5回開催した。フレイル予防に焦点をあて、運動と栄養の講座とした。運動に関しては圏域内の接骨院の先生や作業療法士より、自宅のできるエクササイズやストレッチ体操などを実践と講義をまじえていただいた。栄養に関しては企業の管理栄養士より、心身の衰えを予防するための栄養あっぷの方法や、高力カオの効果の話など講義いただいた。
成果または感想	公民館だよりでの募集に加えて、サロンや役員会でのチラシ配布などを積極的に行い周知に努めたので、多くの参加人数での開催となった。今後も多くの方に参加してもらい、介護予防に取り組んでいただけるよう、地域の特色やニーズに合わせた講座の開催を目指していきたい。
事業名	男性介護者カフェ
事業の目的	第七地区では妻や母親などを介護している男性介護者も多い。男性同士で日頃の悩みや苦勞などを気軽に話していただき、地域社会からの孤立や心理的な負担軽減を図る。また、認知症についての知識や情報を理解していただく機会を作る。「認知症になっても安心して暮らせる地域」が地域全体に広がることを目指す。
事業概要	令和3年度より地区社協や地域事業所、薬局等と打ち合わせをし、認知症カフェの第一歩として、開催。対象者を第七地区の男性で、家族を介護している方、介護経験のある方、また、将来介護について考えている方とした。チラシを作成し周知。対象者のほかに、圏域内事業所、薬局、おれんじサポートチームえがおの方々に参加いただいた。カフェタイム、ミニ講話、質問コーナーなどを設け、くつろいで話せるように、雰囲気作りや流れを工夫して開催した。
成果または感想	「地域にこのように気軽に話せる場があることはありがたい」「ぜひまた参加したい」などの声が聞かれた。少人数ながらも参加者が話題を提供してくれるなど、回を重ねるごとに、充実した内容になっている。今後も参加者の声を参考にしながら内容を検討し、長く続けて行きたいと考えている。

10 山形市社会福祉協議会 霞城西部地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
6月29日	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度の活動実績報告、地域の支援計画について 感染対策をしながら取り組みについて意見交換
2月15日	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度活動実績、各機関の取り組みについてグループワーク及び情報共有

◇ いきいきサロン等への参加(100歳体操) 7回

◇ 地区役員定例会への参加 (楨沢地区定例会・飯塚地区社協三役会・城西一区定例会・城西三区町内会福祉部連絡会・第十地区福祉協力員世話人懇談会等) 23回

◇ 地区行事への参加 18回

(第十地区)

福祉協力員世話人代表者会議、福祉協力員研修会

(飯塚地区)

福祉協力員研修会、飯塚地区の交通課題を考える会、飯塚ふれあいいきいきのつどい

(楨沢地区)

福祉協力員研修会、福祉関係者懇談会、

◇ センターだよりの発行 2回

2 権利擁護業務

◇ 認知症カフェ 「おれんじミニカフェ in やよい」(チームオレンジ)

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 自立支援型地域ケア会議 4回

◇ 個別地域ケア会議(介護支援専門員への支援含む) 5回

◇ 居宅介護支援事業所連絡会 1回

4 介護予防ケアマネジメント業務

◇ 出前講座（介護予防に関する内容） 8回

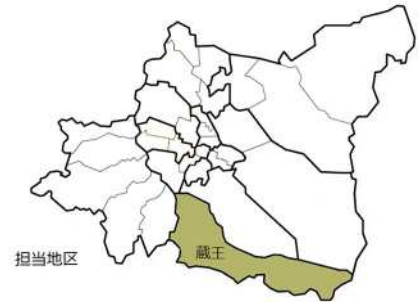
認知症サポーター養成講座 2回

紹介したい取り組み

事業名	ノルディックウォーキング運動教室
事業の目的	コロナ禍で外出機会や社会交流の機会が減少している状況で、閉じこもりによる運動不足の解消を目的として屋外で活動する機会を設けた。なお、ノルディックポールを利用したウォーキング運動は体への負担が少なく、効果的な運動ができるためその特徴を活かした。
事業概要	当センター主催で介護予防教室として開催。ノルディックポールを利用し、約2kmを歩き、運動習慣の定着、介護予防への意識向上につなげた。
成果または感想	このノルディックウォーキング運動教室は令和2年度から開催し、好評を得て毎年継続して実施している。今年度、地区の課題への取り組みにつながるよう企画した。 榎沢地区では防災(水害)に対する取り組みとして、避難経路確認を兼ねて榎沢コミセンから市立第二中学校、西原公園から宮浦小学校への2ルートで実施。市立第二中学校や宮浦小学校からトイレ休憩の協力をいただいた。また、民間企業の無料講話を活用し、栄養面からもアプローチし多角的に開催した。 参加者の身体状況や歩行ペースに合わせて職員が付き添い、マスクを着用しながらも全員完歩された。山形市健康ポイント事業 SUKSK も活用。



11 蔵王地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
6月書面決議	【報告事項】 ・令和3年度蔵王地域包括支援センター事業報告 ・令和4年度蔵王地域包括支援センター事業計画 ・地域課題「突然地域から高齢者が所在不明になることについて」 ～高齢者の居所が変わっても情報共有できる地域づくり～
11/29	【報告事項】 ・令和4年度上半期蔵王地域包括支援センター事業報告 【協議】 ・「身寄りのいない高齢者の関わりについて」

- ◇ 地域ケア会議（個別事例に関するもの） 1回
- ◇ いきいきサロンへの参加 54回
- ◇ 地区役員定例会への参加 18回（民生委員児童委員協議会定例会等）
- ◇ 地区行事への参加 14回

地域推進会議「蔵王ふれあい集会」、蔵王地区ボランティア懇談会、蔵王地区福祉協力員研修会、三者懇談会等

- ◇ センターだよりの発行 3回

2 権利擁護業務

- ◇ 認知症サポーター養成講座の開催 2回

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務


- ◇ 地域ケア会議の開催（ケアマネジャー支援に関するもの） 5回
- ◇ 圏域内主任介護支援専門員連絡会（研修会、事例検討会等） 1回


4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇ 出前講座（介護予防に関する内容） 17回
- ◇ サロンだよりの発行（介護予防に関する内容） 3回



紹介したい取り組み

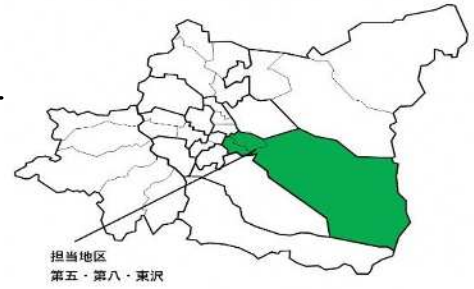
事業名	介護予防講座、蔵王地区シニア健康づくり事業
事業の目的	高齢者の健康の維持増進
事業概要	<p>新型コロナウイルス感染症の収束がなかなか見えない状況の中、閉じこもり状態が続くと、フレイルはどんどん進行していくため、感染対策をしっかりと行いながら、フレイルにならないように健康づくり・介護予防を進める必要がある。運動・口腔・栄養・服薬等のフレイル対策を含む介護予防の一体的な実施による効果的な健康づくりにつながることを狙い、歯科医師、理学療法士、薬剤師等専門職に講師を依頼し、介護予防講座を開催した。</p> 
成果または感想	人生 100 年時代を見据え、高齢者の健康増進を図るために介護予防講座の開催や町内の高齢者いきいきサロンへの参加、サロン便りの発行などを通して、健康づくり・介護予防について繰り返し伝えていくことが必要と思われる。

事業名	若年層を対象として認知症サポーター養成講座
事業の目的	認知症を正しく理解し、高齢者にやさしい地域をつくる
事業概要	<p>次世代を担う若者が地域を支える力となるよう、超高齢社会と認知症についての講話と高齢者疑似体験を含めて開催した。圏域内の中学校運営協議会の構成員と言うご縁があり、認知症サポーター養成講座は毎年 1 学年を対象に実施してきたが、コロナ禍によって 2 年程開催できず、今年は 1 学年及び 2 学年を対象に 2 日間に分けて実施した。生活支援コーディネーターと認知症地域支援推進員の協力を得て無事に開催することができた。</p> 
成果または感想	少子高齢社会、人口減少、地域の担い手不足が深刻な地域において、若者が地域に興味を持ち、高齢者や認知症の人を温かく見守ってくれる人に育ててほしいと感じた。

12 済生会愛らんど地域包括支援センター

1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会



開催日	主な議題
6月29日 (第八地区)	令和3年度 済生会愛らんど地域包括支援センター事業報告 令和4年度 済生会愛らんど地域包括支援センター事業計画
7月5日 (第五地区)	今年度の活動内容や地区の動向について意見交換 住民懇談会の開催について(第八地区)
11月26日 (東沢地区)	「支えあう地域づくり～地域共生社会について～」意見交換 (東沢地区)

◇ 民生委員児童委員との懇談会

◇ 民生委員等地域の方々を通して臨時に広報紙配付協力を依頼し情報収集や啓発活動

◇ 公営住宅高齢居住者に関する懇談会

新型コロナウイルス感染症対策に十分配慮したうえで実施

市営松原住宅・市営天満住宅・県営あたご団地 各1回

◇ コロナ禍におけるいきいきサロン・ふれあいサロン立ち上げや再開に向けて助言等実施

市営松原住宅サロン新規立ち上げ

◇ 地区役員定例会等への参加 32回

(民生委員児童委員協議会定例会、東沢地区社会福祉協議会定例会、福祉協力員世話人会)

◇ 地区行事への参加

第五地区：福祉協力員委嘱状交付式、福祉協力員研修会、わが毎丸ごと地域づくり相談会、地域福祉推進会議、地区社協・愛らんど共催健康講座、サロン運営継続の支援

第八地区：福祉協力員委嘱状交付式、福祉協力員研修会、地域福祉推進会議、新規サロン立ち上げ、サロン運営継続の支援

東沢地区：福祉協力員委嘱状交付式、福祉協力員研修会、民生児童委員・福祉協力員との福祉ネットワーク、地域福祉推進会議、サロン運営継続の支援

◇ センターだよりの発行 6回(定期発行のほか、臨時号2回健康講座案内)

2 権利擁護業務

◇ 認知症サポーター養成講座

◇ 福祉サービス利用援助事業利用及び成年後見制度申し立て支援

◇ 後見支援チーム会議

◇ 高齢者虐待対応(個別ケア会議の開催、関係機関会議)

◇ 消費者被害への対応と啓発活動

◇ 圏域内コンビニ店との高齢者見守りネットワークの構築

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ◇ 地域ケア会議(個別及び自立支援型)の開催 10回
- ◇ 介護支援専門員に対する支援困難事例への個別指導・相談対応 12件
- ◇ 圏域内居宅介護支援事業所等連絡会
- ◇ 地域密着型事業所運営推進会議及び地域密着型通所介護事業所運営推進会議

4 介護予防ケアマネジメント業務

- ◇ 東部公民館事業共催 いきいき100歳体操の運営・協力(第2、4木曜日)
- ◇ 愛らんど健康講座 ①スマートフォンの使い方講座 ②ZOOMの使い方講座 ③お口若返り講座にZOOMで参加してみよう(①～③について紹介したい取り組みをご参照ください)
- ④ウオーキング講座 ⑤簡単調理で美味しく健康に(調理実習講座)
- ◇ 地域サロンにて介護予防に資する講話を実施

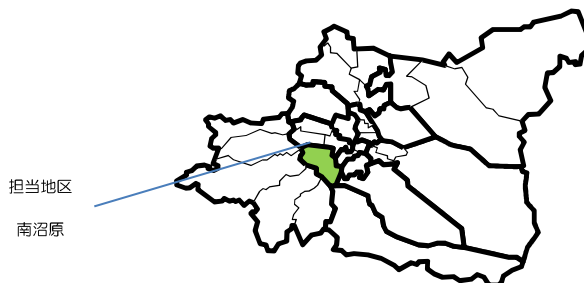
紹介したい取り組み

事業名	愛らんど健康講座 オンライン講座開催に向けた取り組み
事業の目的	健康リスクの高い項目へのアプローチのため健康講座の開催を企画したが、昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため講座が中止になったことから、社会状況に左右されない開催方法や集客方法を検討し、オンライン開催を企画し、実施した。
事業概要	<p>圏域内が今年度の介護予防の重点地区となっており、事業は長寿支援課予防推進係との共催を予定していたことから、今年度の講座をオンライン開催について提案し了解を得られたため、具体的な開催方法について検討した。オンライン開催にあたり、デジタル機器弱者である高齢者に対してオンラインコミュニケーションツールの活用はハードルが高いと考え、まずはデジタル機器に触れること(スマートフォン(以下スマホ)講座)、オンラインコミュニケーションツールを体験すること(ZOOM体験)を講座に盛り込み、一連の流れを経てオンライン講座に参加していただけるよう企画した。スマホ講座、ZOOM体験講座はそれぞれ携帯電話各社の無料講座を活用することとし打合せをおこなった。携帯電話会社には集客目的の講座とならないように配慮いただいた。</p> <p>【第1回(7月6日)】スマホ講座 スマホは携帯電話会社のデモ機を利用。スマホに触れる、基本的な使い方、文字入力の仕方、検索の仕方などを学んだ。参加15名(定員に達したため申し込み締め切り)</p> <p>【第2回(7月20日)】ZOOM体験講座 各自のスマホまたパソコンを持ち込んでいただき開催。ZOOMアプリのインストール、ZOOM会議への参加方法を学び、ZOOMを体験した。参加11名</p> <p>【第3回(9月14日)】オンライン健康講座「お口若返り講座」 会場参加とオンライン併用のハイブリッド式で講座を開催した。オンライン参加者に対しては事前に接続テストも実施した。講座の初めの歯科医師の講話は共有した画面を会場内はプロジェクターで投影しZOOM参加者には画面をみて聞いていただいた。歯科衛生士の健口体操は指導する様子をWEBカメラで写しスピーカービューにすることで指導する様子がオンライン参加者にもわかるように配慮した。会場参加8名 オンライン参加6名</p>

<p>成果または感想</p>	<p>新型コロナの影響で、業務がIT化され、テレワークやオンラインという言葉が多く聞かれるようになり、様々な場面で活用されるようになった。しかし高齢者の多くは聞いたことはあるが触れたことがなく「デジタル難民」という言葉まで生まれた。今回のコロナ禍でIT化された動きはコロナが収束したあとも継続されることが予想される。このような社会情勢のなか、企画した講座は地域住民のニーズに一致したと考えられ、これまで参加したこのない世代（前期高齢者）や男性の参加が多くあり、目的である介護予防を広く啓発するとともに、今後必須となるであろうデジタル機器に対する抵抗感を、いくらか軽減することに寄与できたのではないかと考える。ZOOMを体験したことによって、講座終了後に子世帯、孫世帯と実際にオンラインでつながり、2年ぶりに顔をみて話をするのができた、うれしい報告もあった。介護予防講座をオンライン化し、状況に左右されず広く普及啓発をするために考えて企画は、地域住民の新たなニーズの発掘にもつながった。今後も地域ニーズに応じた形で講座を開催していきたいと考えるが、包括で企画実施するオンライン講座は介護予防のツールとして捉え、デジタル機器の取り扱いやオンライン講座をすることが目的とならないように注意したうえで、企画検討をしていきたい。</p>
----------------	---

13 南沼原地域包括支援センター

1 総合相談業務



◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
9月29日	人生100年時代の医療と介護を知り、南沼原地区の未来を語ろう ～ひとり一人が自分のこれからの事を考えてみよう～ ①南沼原地区の相談現状 ②講話 ③自分のこれからの事を考えてみよう ④意見交換
2月2日	「スマホやパソコン等のICTを活用して、介護予防や他者との交流、地域づくりに繋げよう」 ①ICTを活用した地区活動の報告 ②講話～スマホやインターネットの上手な使い方～ ③情報交換

◇ 地域ケア会議(個別事例に関するもの) 7回

◇ いきいきサロンへの参加(バスの乗り方講習会等) 13回

◇ 地区役員定例会への参加 23回

◇ 地区行事への参加

地区社会福祉協議会総会・役員会、民生委員協議会・三役会、地域福祉推進会議、町内会連合会、福祉協力員研修会、各いきいき百歳体操、各町内会三者会議 等

◇ センターだよりの発行 4回

◇ Facebookにて高齢者に役立つ情報の発信 121回

2 権利擁護業務

◇ 認知症カフェ主催 20回(脳いきいきカフェ10回・脳いきいきオンラインカフェ10回)

◇ 脳いきいきふれあいカフェ(相談会)参加 9回

◇ 知って得する認知症講座 1回 ◇ 商店等への認知症の普及啓発活動 3件

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 圏域内介護支援専門員管理者連絡会 5回 研修会、事例検討会等 2回

◇ 圏域内小規模多機能管理者連絡会 4回 研修会、事例検討会等 1回

◇ 圏域内事業所連絡会 2回 ◇ 圏域内運営推進会議への参加(書面含む) 29回

◇ 圏域内事業所連絡会おらっちょ会議 7回(全体会議3回・プロジェクト会議4回)

◇ 圏域内介護職員向け研修 1回 ◇ 圏域内クリニック・薬局訪問 25ヶ所

◇ らくせいホール協議会定例会 4回 ◇ どんぐりの木定例会 2回

◇ ICT活用プロジェクト会議 5回 ◇ インターネット教室 2回



4 介護予防ケアマネジメント業務


◇ おらっちょ体操の紹介 5ヶ所

◇ 通いの場継続支援 1件

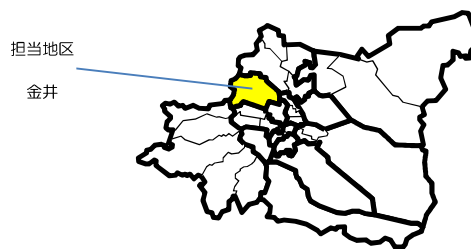
◇ 出前講座「在宅療養を考える」 1回

紹介したい取り組み

事業名	人生 100 年時代の医療と介護を知り、地区の未来を語ろう
事業の目的	少子高齢化が加速する中、団塊世代が 75 歳以上を迎える 2025 年には医療や介護の需要が増えていく事が想定されるが、病院や介護サービスだけに頼らず、在宅で生活することを希望する人が増える。住み慣れた地域で自分らしい生活を最期まで続けていけるように地域内での助け合いが必要。また、1 人ひとりがこれからの事を考えたり、備えておく事が大切で「自分のこれからの事」を考える機会にする。
事業概要	 <p>包括より南沼原地区の新規相談の現状として、元気なうちに介護保険制度などの事を知りたいといった相談や認知症や家族形態の変化から複雑化した課題を抱えた相談が増えている事を報告。その後、南館クリニック阿部吉弘院長より「包括ケアの目指すもの」についてお話いただく。今後増えていく在宅で生活する高齢者へ、もしもの時に備えるため、包括より「もしもシート」の紹介と「自分のこれからの事を考えよう」をテーマに意見交換しながら、現在の自分の状況をシートに記入した。</p> 
成果または感想	参加者のアンケートでは、「今まで考えもしなかったので、良い機会になった」「将来のために、介護の専門職のお話をきいてみたい」「家族と時々将来の話をしています」などの感想が聞けた。今後、町内会やサロン等小単位の集まりなどで、包括ケアシステムや ACP の周知を繰り返し行っていく。

事業名	スマートフォン教室
事業の目的	地区住民より、「災害時にタイムリーに状況を知りたい」「ワクチンの手続きをスマホでできるようになりたい」などの声があり ICT を活用した情報収集や繋がりづくりを目的に昨年度から開催。今年度は「生活に役立つ情報をしらべてみよう」をテーマに、日頃使っている LINE から情報を得る方法を学ぶ。
事業概要	<p>山形市役所広報課広報係を講師に招き、山形市 LINE 公式アカウントを利用して、新型コロナウイルス感染症や防災のタイムリーな情報、ごみの分別方法などの生活に役立つ情報を得る方法を教えて頂いた。参加者は自分のスマートフォンで操作。圏域内の事業所が補助スタッフとして参加し、操作の声掛けを行った。</p> 
成果または感想	参加者の声として「ごみの分別方法を簡単に検索できていいですね」「自分のいる場所から近い避難所を調べられるのはいざという時に安心だ」などの声があった。生活に即した内容で、実際操作しながら理解できたことが良かった。今後も住民の声を元におらっちょプロジェクトとして講座を企画、開催していき、ICT を活用した介護予防や他者との交流、豊かな地域づくりにつなげていきたい。

1 4 金井地域包括支援センター



1 総合相談業務

◇ ネットワーク連絡会

開催日	主な議題
6月22日	職員紹介 報告 ・委員の交代について ・昨年度の概況報告 ・金井地域包括支援センター事業計画について 情報交換 ・高齢者支援における多機関連携について
11月30日	報告 ・第1回ネットワーク連絡会のまとめについて ・令和4年10月までの活動報告について ・令和4年度下半期の事業・活動予定について 意見紹介及び意見交換
3月23日	報告 ・第2回ネットワーク連絡会のまとめについて ・令和4年11月から令和5年3月までの活動報告について 意見紹介及び意見交換

◇ 地域ケア会議(個別ケース) 8回 ◇ いきいきサロンへの参加 10回

◇ 地区行事・会議への参加

毎月…金井地区社会福祉協議会三役会、金井地区社会福祉協議会理事会、金井地区民生委員児童委員協議会定例会
金井地区福祉協力員総会・研修会、金井地区社会福祉協議会評議員会、新江俣町内会三者懇談会、江俣町内会三者
懇談会(年3回)、陣場町内会三者懇談会(年3回)、吉野宿町内会三者懇談会、船洗町内会三者懇談会、
金井地区地域福祉推進会議、金井地区社会福祉協議会新春交歓会、金井地区社会福祉協議会福祉部長合同研修会、
金井地域交通網検討委員会

◇ センターだよりの発行 2回

(65歳以上高齢者宅全戸・医療機関・歯科医院・薬局・交番・金融機関・介護保険事業所・ガソリンスタンド・
コンビニエンスストア・地域内の商店・金井コミュニティセンターに配布)

2 権利擁護業務

◇ 認知症サポーター養成講座 ◇ 消費者被害について講座

3 包括的・継続的ケアマネジメント業務

◇ 介護支援専門員への個別支援 6件 ◇ 介護支援専門員との連絡会・幹事会・事例検討会(毎月)
◇ 居宅事業所・サービス事業所連絡会(年1回) ◇ 居宅事業所研修会(年1回)

4 介護予防ケアマネジメント業務

◇ 介護予防講座 31件

(フットケア講座、骨粗鬆症予防講座、体力測定会、ウォーキング、ACP・もしもシートについて、
軽体操、認知症サポーター養成講座、口腔ケア講座など)

◇ ボランティア養成講座 ◇ ほっとカフェかなみ〜な(認知症カフェ)(毎月)

◇ 金井あおぞら体操(毎週水曜日 9:00～) ◇ 内表あおぞら体操(第1、第4月曜日 9:00～)

◇ 吉野宿あおぞら体操(11月～3月 週1回 9:00～)

紹介したい取り組み

事業名	「かなみちゃんタクシー」を利用した「ほっとカフェかなみ～な」への参加支援
事業の目的	山形市高齢者保健福祉計画（第8期介護保険事業計画）に関するニーズ調査の結果、金井地区では介護、特に認知症に対する不安を感じる人が多いということ、またその一方、担い手として地域で支援できるとおっしゃっている方が多く存在していることが明らかになった。認知症の本人やその家族、認知症について理解したい人が気軽に立ち寄り気持ちを共有したり学んだりする場を目的としている。
事業概要	<p>令和3年度以前からの構想であった認知症カフェが令和4年度6月より毎月1回の定期開催している。開催曜日や時間を固定しないことで介護保険サービス利用者や地域活動に参加している家族が、今月参加できなくても来月に参加できるよう配慮している。運営にあたり金井地区の事業所スタッフや居宅のケアマネジャーで活動に賛同いただける方や、認知症カフェボランティア養成講座を開き住民ボランティアを募ることで、地域ぐるみで運営をおこなっている。奇数月が認知症に関するミニ講話を専門職がおこない、偶数月は認知症介護の経験がある住民を招いてのトークセッションをおこない認知症についての理解を深めながらフリートークの時間を設けて情報交換をおこなっている。</p> <p>金井地区西部エリアは電車やバスなどの公共交通機関がなく、特に高齢者の外出の不便さがあることから、山形市のモデル事業として令和4年7月からタクシーを使った新たな交通手段「かなみちゃんタクシー」の実証実験を開始。金井地区交通網検討委員会にアドバイザーとして地域包括支援センターも交えていただき、利用促進に向けた動きとして「ほっとカフェかなみ～な」はじめ介護予防講座への参加の足として活用いただけるよう提案。協働でチラシ作成などおこない令和4年11月の「ほっとカフェかなみ～な」には3名の方が初めての参加に結びついた。包括として住民のニーズに沿い認知症への取り組みと交通課題の事業が相乗効果になった事例である。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
成果または感想	<p>人数の変動はあるが20名前後の認知症の本人やその家族、認知症について理解したい人が来所され、フリートークの時間で自由な懇談ができています。また情報交換の間、認知症の診断のある本人を専門職が対応することで介護者家族の交流ができるように座席の配慮などをおこなっている。飲食はお茶コーナーを設け、席には持ち込まないようにすることで対策をおこなった。ミニ講話や介護経験のトークセッションを聞いた後にフリートークの時間をもうけることで会話のきっかけづくりになったと感じる。家族同士が話をする場面なども持てることでお互いの悩みの共有や共感が得られたようで「自分だけが悩んでいるのではないと気付いた。気持ちに共感してもらえると安心する」「認知症は他人事ではないと思い参加した。いろいろなことを学ぶ機会になった」「専門職の方がいるので気軽に介護や健康の相談ができる」などの声が聞かれている。交通手段として「かなみちゃんタクシー」を利用することで金井地区西部エリアの方が参加できるきっかけとなった。今後も「ほっとカフェかなみ～な」、「かなみちゃんタクシー」が住民に広く知られるよう地域の皆さんと協働していきたい。</p> <p>運営資金、コーヒー等の提供をどのようにするか、トークセッションをしてくださる認知症介護の経験者をどのように確保するかなどの課題を検討しながら参加者の声や振り返りをおこない継続して事業運営をおこなっていききたい。</p>

15 山形市基幹型地域包括支援センター

1 地域包括後方支援活動

- ◇ 包括主催会議への参加 54回 (打ち合わせ等 17回)
ネットワーク連絡会、他各種連絡会、交流会、研修会、その他等
- ◇ 包括機能別部会の開催 51回 (打ち合わせ等 39回)
総合相談部会、包括的・継続的ケアマネジメント部会
権利擁護部会、介護予防ケアマネジメント部会
- ◇ ブロック情報交換会 44回 (打ち合わせ等 12回)
南西ブロック情報交換会、中央ブロック情報交換会、北東ブロック情報交換会
- ◇ 市主催会議(包括関連への参加) 37回 (打ち合わせ等 21回)
センター運営者会議、センター長会議、センター情報交換会 等
- ◇ ヒアリング・定期訪問 100回
ミーティング、センター内会議、業務会議 等
- ◇ 個別事例対応(同行訪問) 3回 (打ち合わせ等 3回)

2 地域課題把握・解決業務

- ◇ 地域ケア調整会議への参加 5回 (打ち合わせ等 5回)
- ◇ 課題整理・解決策等支援 9回 (打ち合わせ 3回)
- ◇ ワーキングチーム 14回 (打ち合わせ 4回)
- ◇ 自立支援型地域ケア会議の支援 35回 (打ち合わせ 33回)
- ◇ 個別ケア会議への参加 19回 (打ち合わせ 6回)
- ◇ 基幹型主催・共催研修会の開催 33回 (打ち合わせ 13回)

3 地域包括ケアシステム構築に関わる機関の主催する会議への参加

- ◇ 在宅医療介護連携推進事業 17回 (打ち合わせ 8回)
- ◇ 生活支援体制整備事業 65回 (打ち合わせ 45回)
- ◇ 認知症総合事業支援 36回 (打ち合わせ 21回)
- ◇ その他機関 21回 (打ち合わせ 15回)

4 事業所支援業務

- ◇ 日常生活総合事業(通所、訪問) 3回 (打ち合わせ 2回)
- ◇ その他事業所 54回 (打ち合わせ 49回)

5 その他

- ◇ 地域住民等への広報啓発活動 76回 (打ち合わせ 4回)
- ◇ 職員の資質向上のための会議・研修会参加 37回 (打ち合わせ 1回)

紹介したい取り組み

事業名	課題整理（包括が捉えた課題の集約・地域課題等）と多機関連携の取組
事業の目的	<p>当センターでは、地域包括ケアの構築・深化に向けて、地域包括支援センターを中心に地域課題の抽出と整理を行うとともに、課題解決策の検討等に関する支援の他、各機関の連携促進や情報等の共有を図るために取り組みを継続している。経過の中で、積み重なる課題や時代に伴う新しい課題、複雑多問題の課題など、包括的支援事業（以下、事業）に求められる活動は多岐にわたる。さらに新型感染症拡大に伴い、事業の推進が思うように進められなくなるなど、幅広い対応が求められた。これまで以上に事業同士が協力し、より効果的で効率的な事業展開や連携を図ることを継続するため、運営の仕方や対応方法の創意工夫を検討し、その上で各事業の動きや考え方などを共有・情報交換および、課題の協議を進める場の充実・拡充を進めてきた。</p>
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ●包括後方支援業務およびICT活用による業務継続支援（ZOOM会議など） <ul style="list-style-type: none"> ・「包括機能別部会」の役割見直し。専門分化した課題協議の取り組み実施。 ・「包括主催自立支援型地域ケア会議」や個別ケア会議の積極的後方支援。 ・YouTube配信「包括的支援事業所合同情報交換（SHOP・TV）」。 ●地域課題把握業務 <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援型ケア会議の打ち合わせ等対応増加による継続した基盤整備。 ●地域包括ケアシステム連携業務 <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援体制整備事業の充実に向けた継続した基盤整備。 ・介護保険事業所連絡会や支えあい団体等との会議の開催支援の強化と、多分野にまたがる課題を、別事業同士で協議するための合同会議の実施。 ●広報活動の支援・推進 <ul style="list-style-type: none"> ・集会が出来ないことからの広報・連携の代替え策として「MCS」活用の拡大、ZOOM会議、YouTube、動画制作などの推進活動。 ・「きかん新聞」発行（年間3回）配布機関を拡げ配布（市内全事業所他、薬局への拡大）。
事業名	介護保険事業所連絡会
事業の目的	<p>介護保険事業所連絡会は、地域包括ケアの構築・深化に向けて、一体的な平準化やケアの質の向上を目的にし、また各事業種別で捉えた地域課題の抽出と整理や、課題解決策の検討等も協議し得る場として会を運営する。</p>
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ●11事業種別の連絡会 <p>居宅介護支援事業所連絡会、訪問介護事業所連絡会、訪問看護事業所連絡会 通所介護事業所連絡協議会、通所リハビリテーション連絡会、短期入所事業所連絡会、福祉用具貸与・販売事業所連絡会、小規模多機能型居宅介護事業所連絡会 通所C事業連絡会、訪問C事業連絡会</p> ●活動 代表者会（代表：居宅代表 副代表：通所代表 副代表：小多機代表）2回 全体連絡会代表者合同情報交換会 2回 地域ケア調整会議への参加 2回（居宅幹事3人） ●各連絡会の状況まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・各事業種別のコロナ禍による影響や課題の共有を行った。 ・訪問介護事業所連絡会は、備品の不足など事業全体の課題を把握し市との協議を行った。 ・事業の推進や理解の促進のため、連絡会独自でアンケート実施をした。 ・事業種別ごとだけではなく、協働会議の企画をし提案した。

事業名	第1層生活支援体制整備協議体 ～高齢者の孤立や事故防止に向けた多様な主体による日常的見守りの促進～
事業の目的	地区社協や地域包括支援センターによる見守りネットワークの構築に加え、訪宅系事業者が訪問する際の見守り視点を強化することで、人的・質的な多層ネットワークの構築を図る。
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ○第2層生活支援コーディネーター、地域包括支援センター、おれんじサポートチーム、まるごと相談、事務局（長寿支援課・1層SC）からなるコアメンバーによる検討会を開催。 ○コアメンバー会議に、見守り等事業の実施企業（山形新聞・山形ヤクルト・生協・郵便局）を招集し、実情や好事例を把握した。 ○見守りによる異変時の通報窓口を整理（山形警察署との整理） ○市内の訪宅系事業者（弁当配達・食材配達・新聞配達・宅配業者）及び山形警察署に趣旨説明を実施。また、見守りネットワークへの協力を確認。 ○第1層協議体全体会を開催。訪宅系事業者の本社・本部担当者に対する取り組みの合意形成を図った。また、取り組みの目的から、高齢者宅等を実際に訪問する配達員一人ひとりに周知できるよう、次年度支店・営業所まわりを実施する旨についても合意を得る。